

第1章 「教育に活用されている馬」

教育

馬に関わる授業・活動を取り入れている高等学校

北海道静内農業高等学校

青森県立三本木農業高等学校

熊本県立菊池農業高等学校



高等学校教育においては、多くの学校で馬術部があるほか、農業高等学校として馬に関わることを学ぶことができる。

馬に関わる授業やプログラムについては、各学校において工夫され様々な特色があるが、ここでは、馬との関わりに特色のある、北海道静内農業高等学校、青森県立三本木農業高等学校、熊本県立菊池農業高等学校の3つの事例を紹介する。いずれも農業課程を持つ農業高等学校であり、畜産系について学ぶ授業や実習の中で馬と関わる機会がある。

北海道静内農業高等学校

活動と施設の概要

北海道日高郡新日高町静内に昭和53年に北海道立の農業高等学校として設立され、全国で唯一の軽種馬生産学習を正規のカリキュラムに取り入れている。

学科は、食品科学科と生産科学科の2学科からなり、授業で馬を取り扱うのは生産科学科である。生産科学科はさらに「園芸コース」「馬コース」があり、「馬コース」では、地域産業の特色を活かした全国唯一の競走馬の生産、育成、調教や乗馬に関する教育を展開している。平成27年度現在の生産科学科の在籍生徒数は86名。

学校教育目標は「自ら考え正しく判断できる力を養い、たくましく生涯を生きる生徒を育てる」、重点目標として「地域と連携した特色ある農業・馬事教育の展開」と設定されている。さらに、生産科学科の学科目標には、「馬応用力を通じた、農業ビジネスやヒューマンサービスの関連産業へ従事するための意識を養成する」と、馬を利用した教育を行うことが明記されている。

同校の実施している馬事教育には、下記1～5の事項が挙げられている。

- 1) 繁殖牝馬の管理による軽種馬生産
- 2) 日高軽種馬農業協同組合北海道市場参加
- 3) 馬事教育に対する地域支援

公益社団法人日本軽種馬協会静内種馬場及び軽種馬生産技術研修センターによる支援（種付け見学他）

- 4) 交流乗馬

拓殖大学北海道短期大学の出前授業（コミュニケーション能力の向上・障がい児との接し方）他

- 5) 馬術部活動



厩舎の前で馬の取扱いを学ぶ様子

生産科学科では、授業として週1回、部班で1時間、1人15分程度の乗馬が行われている。2年次からは、生徒の興味・関心に合わせ、「馬コース」と「園芸コース」に分かれて学ぶ。馬に関わる科目として「馬学」（馬をより良い環境で飼育するための、馬に関する基礎的・応用的な知識や技術について学ぶ）と「馬利用学」（馬の基本的な性質や取り扱い方、乗馬の基礎技術を学ぶ）が行われている。

さらに、ホースセラピーに関わる活動として、北海道平取養護学校ペテカリ分校との療育乗馬を通じた交流活動を行い、医学的・作業療法的な見地からの成果分析も行っている。ペテカリ園分校との交流は年4回行われ、PTA研修を年1回実施している。

また、キャリア教育として、2年次へのインターンシップの導入、3年次へのデュアルシステム（長期企業研修）が導入されており、平成27年度には4企業（地域の育成牧場）に計8名の学生が参加している。

一方、馬術部は昭和53年の開校と同時に設立され、平成27年度の馬術部員は30名である。馬術部は馬の管理をはじめ毎日乗馬をしている。平日は、準備等を含め1時間半程度、休日には乗馬時間として2時間（1人あたり30分程度）を目安に活動が行われている。

日	月	火	水	木	金	土	日
1	OC	園芸総合	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学
2	園芸総合	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学
3	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学
4	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学
5	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学
6	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学	動物学

1週間の時間割の掲示例

本校の特筆すべき点として、

- 1) 高等学校生徒自身が、サラブレッドの繁殖・育成・販売に直接関わっていること
- 2) 障がい児との交流は約30年続いており、学外から講師を呼んで、障がい児とのコミュニケーションを学びながら、生徒が主体となり年に5回の療育乗馬が実施されていることが挙げられる。

同校には、北海道以外の全国からも、馬のことを学びたい生徒が入学を希望し進学しており、馬を取り入れた教育が本校の特色の一つとなっていることを示している。

（所在地：北海道日高郡新ひだか町静内田原797）

青森県立三本木農業高等学校

活動と施設の概要

明治31年に青森県十和田市に開設された「青森県農学校」を前身とし、昭和23年の学制改革により現在の農業高校となった。農業経営者育成高等学校でもある。

学科は6学科あり、そのうちの一つ、動物科学科では、動物の飼育・経営・活用のプロフェッショナルを目指し、馬学の学習も行われている。

動物科学科はさらに、2年次より「産業動物コース」（牛・豚・鶏等の産業動物の生理と飼育など人と環境にやさしい家畜生産や畜産経営について学習）と、「社会動物コース」（馬・犬等の社会動物の特性や飼育、動物と社会の関わりなど社会動物の管理と活用について学習）の2コース制となっている。

学校の教育課程に基づく科目として「馬学」が動物科学科3年次（単位数4単位）に設定され、

第1章 「教育に活用されている馬」

馬の特性としつけ、活用と騎乗、馬体の名称と判別法、飼養管理、骨格・筋肉・護蹄など馬に関する様々な知識や技術を学ぶことができる。平成27年度は3年次の生徒8名が履修している。

また、授業の他に、2年次、3年次でそれぞれが年間を通して取り組む課題研究「馬に関する研究、馬肉に関する研究」も行われている。

1 位置づける教科名	農業
2 科目の名称	馬学
3 単位数	4単位（動物学科3年生）
4 科目の目標	馬の生理・生態及び騎乗や飼育管理に必要な知識と技術を習得させ、スポーツとしての馬術の特性を理解させるとともに、馬に携わる技術者として、必要な能力と態度を育てる。
5 科目の内容	1 馬の歴史と各部の名称 2 主な疾病と対処方法 3 蹄の構造 4 騎乗訓練と動物セラピー
6 内容の取扱いについて（留意点）	1 馬の概論について理解させ、日常管理でどのように付き合っていけばよいかについて基本的な内容を扱う。 2 予防衛生の内容について扱う。 3 装蹄の理解を図る。 4 継続的な飼育・管理・騎乗訓練実習を通して、基本的な知識・技術の修得と動物セラピーの理解を図る。
7 教科書（教材）	自作教材 副教材：日本中央競馬会発行「馬学」

動物学科3年生の馬学教育内容

高校の課外活動として位置づけられる部活動として運動部系15、文化系7のクラブがあり活発な活動を行っており、馬術部もその一つである。

馬術部は、開設当時から存在し、獣医師でもある教諭を顧問とし、部員は1年9名、2年1名、3年1名の計11名が所属している。馬術部の活動は、授業終了後、通常のクラブ活動と同様に行われている。

同校は、県所有の厩舎約234m²（平成14年築）と馬術部所有の厩舎368m²（平成9年築）を有しており、県所有馬3頭（アングロアラブ1頭、サラブレッド2頭）、馬術部所有馬1頭（サラブレッド）の計4頭を飼養管理している。

平成20年に公開された邦画『三本木農業高校、馬術部 ～盲目の馬と少女の実話～』は本校馬術部を舞台にした実話が映画化されたものである。

乗馬指導ができる教員が1名と少ない中、積極的な馬を利用した教育活動を行っている点は、特筆すべきところである。

（所在地：青森県十和田市大字相坂字高清水78-92）

熊本県立菊池農業高等学校

活動と施設の概要

本校は、明治36年に開校された「菊池郡立菊池北部農業学校」を前身とし、昭和39年に熊本県立菊池農蚕高等学校と熊本県立菊池西農業高等学校が統合されて、熊本県菊池市泗水町に設立された。農業経営者育成高等学校でもあり、農業後継者の育成を中心とし、生き物や畑仕事に関心のある学生が入学する他、特別支援学校からの入学を希望する生徒も少なくない。

教育の特色として、植物や動物の実習科目が多く設定され、技術教育、人格教育、感性教育を豊かな環境において実践している。

学科は5学科あり、そのうちの一つ、畜産科学科では、「生産動物（牛乳・和牛・豚）のほかに、伴侶動物、野生動物、乗用馬などを教材として、その特性に関する知識と技術を習得させるとともに、農業経営者と動物関連産業の発展に寄与する個性豊かな人材を生育する」ことをも目標としており、馬との関わりも取り入れられている。

具体的には、1年次では、基礎科目に配当される「農業」「環境」「総合学習」の中で馬の取り扱い

いの基本を学ぶ。馬にはじめて触れる生徒であっても、おとなしい馬と関わることにより、馬を好きになってもらえることを大切にしている。

2年次では、「中家畜」「大家畜」「ニワトリ」「乗用馬」の4部門の専攻に分かれて学ぶ。1週間ごとに4つの専攻を順番に学び、生徒全員が馬に触れる機会を持てるようにしている。また、この学年において、愛玩動物飼養管理士2級を全員が受験する。

3年次では、馬に関心を持つ生徒が「乗用馬」を選考し、1週間で8時間の授業が行われている。

このように、進級するに従い、専門性が高まるようなカリキュラムとなっている。



厩舎の前で馬の手入れを実習



厩舎内の様子

馬関係の施設は、平成11年に開催された第54回国民体育大会「くまもと未来国体」の馬術競技の特設会場となったことで、校内にクロスカントリ用のコースが設置されているなど、馬場や厩舎設備等は整っている。

馬術部の活動も盛んで、優秀な選手を輩出している。

その他、ボランティアクラブの主体的活動として、市の催し物や特別支援学校、幼稚園などへの動物の出展の依頼に対応するため、校内のポニーや犬を連れた訪問動物園が行われている。

(所在地：熊本県菊池市泗水町吉富 250)

背景(地域連携、展望等)

今回とりあげた各学校は、地域に根付いた教育と生徒に対する効果的な教育を行うために、正課授業および課外活動の中で、馬と関わる取り組みを積極的に取り入れている。

いずれの高校でも、教育課程において馬が関わることで一定の教育効果が得られることが実感されている。これは、馬が教育分野においても優れた効果を持つプログラムに関わることができることを示しており、教育分野は馬の利活用の重要な領域であることを実証している。

※文部科学省指定の「農業経営者育成高等学校」は全国に26校あり、目標は、農業経営を担当するのにふさわしい資質と意欲を備えた未来の農業人の育成である。寄宿舎教育を含めた教育が行われている。